

「学校・家庭・地域連携協力推進事業(学校を核とした地域力強化プラン)」 (地域未来塾)の取組事例

「地域学校協働活動(地域未来塾)」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

震災による児童生徒を取り巻く住環境や地域コミュニティの変化の影響は大きく、10年を経過しても解消しているものではない。そこで、児童生徒が放課後等に地域の学び相談員の支援により自主的に学習し、家庭学習の習慣形成を図ることを目指し、学び支援コーディネーター等の配置を行っている。

内容

- 1 「放課後学び教室」
開催を希望する小・中学校に対し、学び相談員を派遣し、学校単位で実施。6月から2月の期間内で、学校の実情に合わせて週1～3回実施。
- 2 「夏休み学び教室」
夏季休業中の2日間、石巻市「遊楽館」を会場に、市内の小・中学生を対象に学び相談員や学生ボランティア等が学習支援を行った。
- 3 「長期休業中の学び教室」 夏季休業・冬季休業に開催希望校で学習支援を行った。



ポイント

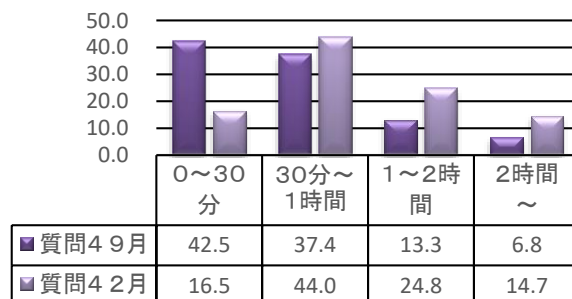
- 「放課後学び教室」・・・小学校14校、中学校10校で開催。
- 「夏休み学び教室」・・・小・中学生のべ146名参加
⇒どちらも開設校や利用児童生徒、保護者等にアンケートを実施し、評価・検証を行って事業の充実を図っている。

成果

「放課後学び教室」アンケートより

- 学習意欲、自主性、相談員との関係性の観点による肯定的な回答は昨年度に引き続き今年度も8割以上であった。
- 「放課後学び教室」に参加した児童生徒は、意欲的に学習に取り組み、家庭学習の習慣化につながった。

家庭学習時間(小・中計)



今後の方向性

- 本事業の継続を望む声が、児童生徒保護者から寄せられており、事業終了後は地域学校協働活動において各学校で実施できるよう、事業終了と準備について周知していく必要がある。
- 感染症対策を講じながら開設する必要があることから、実施や環境整備など、今後も各校で適切に判断していく。
- 学び相談員の確保が課題ではあるが、「自学自習を支援する」という趣旨を保護者、参加者に周知する。